

# 平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.11

2006.6.5

発行：平和憲法・9条をまもる  
岩手の会 事務局会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL019 - 684 - 2225

FAX019 - 684 - 2227

いわて女性・九条の会 発会一周年記念講演会（5月27日）から  
「平和講演会 沖縄の海は日本の海 ～ 沖縄辺野古から見た憲法9条」

今回の講師・大西さんは、今年の1月、平和憲法・9条をまもる岩手の会が主催した「沖縄・平和の旅」の時に、辺野古の闘いの状況を説明してくれた方です。



ヘリ基地反対協議  
会代表委員の  
大西照雄さん

沖縄の基地は、今新たな段階に入っています。普天間基地移転の戦いは、微妙に沖縄に影をおとし、その移転先が北部の辺野古に決定してからは、県民も地元辺野古も分断されています。

辺野古はジュゴンの生息地であり、その浅瀬は戦後の貧しい時代を支え、生活の糧となったゆたかな海です。そんな海が埋めたてられ、戦闘機の訓練の爆音と墜落の危険におびえて暮らすなど地元の人にとっては到底許せるものではありません。非暴力を貫く沖縄の戦いは、海で戦う武器としてカヌー隊を編み出しました。老若男女一生懸命カヌーの練習をし、カヌーで海にいることで作業を妨害し、決して暴力に訴えない抵抗をして、辺野古沖案を撤回させましたが、今度はもっと悪い沿岸埋めたて案が、V字案と言う訓練の時にはあり得ない発着別々の滑走路案で押し切られた所です。

大西さんは、高校の教師時代や退職した今も、辺野古のカヌーの指導をしながら、闘いの理論の支柱になっている方です。講演会では、バックに地元テレビが流した闘いの記録のビデオを無声で流しながら、漁業に携わる人、豊かな自然を生かして民宿を営む人、牧師さん、行き場がなくふらりと立ち寄った辺野古で目覚めて一緒に戦っている青年、地元の海を守りたいと闘争小屋で飽きずに頑張っている“おじい・おばあ”などいろんな人の姿を紹介しながら、沖縄の置かれている現状を映像を交えて話さ

れました。

沖縄には、宣伝されているような、基地の縮小の現実はなく、米軍の殴りこみ部隊といわれる先鋭集団の強化構想の一方で、普天間基地の返還を最大の武器に日本に恩を売り、一方ではアジア・世界戦略の拠点としての固定化を狙っている実態もわかりました。

米軍基地容認の風潮は、米軍基地は“巨大職場”といった報道に表われているように、基地があることのメリットを盛んに謳い、今回も経済援助を手土産に、基地のない平和な島を目指す県民の気持を逆なでしながら、世論を変えていっています。

しかし、沖縄の人にとって、返還で日本国憲法を手に入れた時の感激は大きく、まさに「沖縄にとって日本国憲法はティーン（太陽）」だった事も紹介されました。



映像で現地での闘いの様子を  
紹介

米占領下の沖縄では、日本国憲法は適用されず、72年の「祖国復帰」は、何よりもまず「平和憲法」への復帰であり、基地のない沖縄への一歩だったと言います。又大西さんは「米軍拡大に日本が利用される時は、必ず沖縄が踏み台にされる」と言いながらも、沖縄に同情して一部を本土で引き受けるのは、何の解決にもならないばかりか、かえって米軍の恒久化の手助けをすると主張。普天間等の沖縄基地縮小論議で引き受けた、北海道の矢白別は日米の演習場として固定化した例をあげました。

今また、日本のあちこちで米軍再編の名の元に、自衛隊と米軍が一体になった基地の強化がすすみ「沖縄にだけ負担を背負わせてはいけない」と、まことしやかに言われるようになりました。しかし、そ

の再編の目論みが、アメリカが世界に戦争をしかける時の“殴りこみ部隊”の強化と、戦闘機やヘリコプター等の戦争資材の強化に他ならない事が、次第に明かになってきています。極めつけは、米軍の司令部がキャンプ座間に移転し、横須賀が原子力潜水艦の母港になることです。日本がアメリカの先兵に

なるための仕上げが、平和憲法9条の改悪です。

沖縄の問題は、日本全体にしかけられた問題であると強調する大西さんの訴えに、多いに共感できました。あきらめずに全国との連帯で、9条を守り「戦争をしない国」を守りぬく決意を新たにしました。

## 地域・職場の「会」で、戦争体験を聞こう

各地域の「9条をまもる会」で、戦争体験を語り・聞く取り組みが広がっています。その一部をご紹介します。

### 花巻 4月1日(土)戦争体験を聞く市民のつどい

「平和憲法・九条を守る」運動に取り組んでいる花巻地域懇談会(12団体)主催

花巻市在住の三田照子さん(株三田商会会長)、齋藤政一さん(県原爆被害者団体協議会会長)のお二人が語り部。終戦後に満州から引き揚げた三田さんは、幾たびかの死線をかいくぐってきたという逃避行の記憶をたどり、「過ちを繰り返さず、世界の隅々まで平和になるために平和憲法を守るべき」と訴えました。広島で被爆した齋藤さんは、「人間が人間として死ぬことも生きることができなかった」という原爆投下直後の地獄絵図と奇跡的な生還の経緯を語り、戦争の悲劇と核廃絶を訴えました。

会場では、花巻空襲を描いた絵手紙も展示されました。



12団体が手分けし、会場周辺の地図をつくり、2,000世帯にチラシを配布してお知らせも

感想から 中国で苦勞した体験をお聞きし、戦争はあってはならない、平和な日本であってほしいと思いました。貴重なお話を聞く機会をありがとうございました。大変いい企画だと思います。

### 滝沢 3月26日(日)戦争体験を聞き、平和の願いを語る会 平和憲法・九条を守る滝沢の会 主催

滝沢村在住の山本シゲ子さんが、12時間交代の砲弾づくりに駆り出された女子挺身隊の体験を、西村竹治さんは終戦を満蒙開拓地で迎え、「引き揚げの際に、立ち木に子どもをくくり付けてきた来た人たちがいた」と満蒙義勇開拓団の体験を語り、ともに平和の大切さを訴えました。ビデオ出演で、東京大空襲の体験と盛岡駅前空襲で実家を焼失した経験を語った方もありました。



「語る会」の様子は、後日、滝沢の会のニュースで詳しくお知らせしました

感想から・・・せっかく生まれてきたのに戦争で命を失いたくない。すばらしい憲法を輸出できたらいい。(中学二年生)

戦後生まれが3分の2を占めるようになって、戦争の実相や恐ろしさが風化している今、身近にあった戦争体験を語り・聞くことで、「二度と戦争はしたくない」「九条を守りたい」という気持ちを新たにできる機会になっています。

あなたの地域でも計画してみてもうでしょうか？

### お知らせ 6月の街頭宣伝行動 ぜひご参加ください!

6月9日(金) 12:00~13:00

盛岡市大通り・野村證券向い(今回は1ヶ所で行います)

5月9日の「9の日」街頭宣伝行動には、盛岡市内2ヶ所(ホテルルイズ前、大通り)に47名が参加。同時に街宣車2台で市内を周り「9条まもろう!」をアピールしました。この日は、昼時間の1時間で141筆が寄せられましたよ。